

# 世界でオンリーワン蘭展の開催



## シンビジューム

蘭育種家 宇井 清太

「宇井清太の夢炎」すべての花が世界にひとつ」と銘打った蘭展を、今年の三月一日から五月五日まで、弊社の育種研究ハウス千坪において開催した。花は感動を呼び、感動は人を誘って、県内・全国各地から五万五千人を超える方々に会場いただいた。

この入場者数は東京ドームを満員にするものであり、別な言い方をすれば、寒河江市の文化センターを四十日間超満員にすることに匹敵する。人口百二十万人の山形県で、この集客数は、個人の企画展としては例を見ないものと思っている。

私はこの蘭展を行うに当たって、次の五つの理念（目標）を掲げた。

一、世界中でこの国の誰もいまだ行ったことのないオンリーワンの蘭展であること。  
東京ドームの蘭展を超えるものであること。

二、展示するすべての蘭花は、世界に一つしかない、宇井清太作出のオリジナルであること。

三、蘭展のすべてを宇井清太が一人で行うこと。入場無料であること。

四、蘭展が日本の中で最も「たおやか」な山形県の、寒河江市の「桃源郷」で行われること。

五、山形県、寒河江市が、世界に誇れる継続的な「観光拠点」を作るものであること。

蘭の美しさは人の心を虜にして離さない。とりわけシンビジュームは、花弁と萼の限られた中に「定型の深遠の美」を宿し、その最大の魅力は一枚の花弁が変化した個々のリップ（唇弁）にある。しかし、バブル経済の中で生まれたフラワービジネスは、遠くに離れて眺めてキレイなシンビを望み、個体が本来持つ「唯一」「異能」の輝きを捨てることを要求し、その果てに大量生産された金太郎アメ的なシンビは、惜しみもなく捨てられていく……。

私が蘭の育種を手がけてから、四十余年になる。この年月は、いつの日にか世界のどこ

の国の、誰も見たことのない蘭展を行うことを夢に抱いてきた年月でもある。

私は洋ランの中で、シンビジューム一種のみを追い、約三十年間は世界中から優秀な交配親を集めることに費やした。育種というのは、遺伝子の組み合わせなので、膨大な数の優秀な遺伝子のコレクションが無くては、夢を実現することはできないからである。

数千の交配を行って、私が作出したオリジナル品種は七千を超える。そのうち英国園芸協会に新種登録したものが二百十余種。これは世界ランキング歴代十位、現役三位である。私はその全品種を一品種も販売しないで保存してきた。それは、「世界に一つ」の七千の花たちを説明するに言葉は足りない、「『すごい』の一言以外に言葉が見つからない」と、ただ息をのむような、世界で誰も見たことのない蘭展を夢見てきたからである。

思えば、七千品種を作るために、この十余年は旅行一つしなかった。唯一無二。ローマは一日にしてならない……。世界最多の品種



著者が交配した新品種 Spring Vision スプリング ビジョン

コレクションを駆使しての蘭展は、宇井清太  
作出オリジナル品種でのシンビジューム全貌  
展でもある。

だが、「世界に一つの花」だけで人は感動す  
るだろうか。それだけでは足りない。個人が  
行うイベントには「カリスマ性」が必要であ  
る。万人を絶句させる熱情が宿らなければ、  
人々は感動しない。

蘭展を行うには企画から開催期間中につ  
けて、多岐にわたる多種多様な作業が山積する  
が、そのすべてを私一人で行う。この蘭展は  
「宇井清太の生きざま」を展示するものでもあ  
るからである。

広告看板作製、十万枚の案内状印刷、千坪  
の会場設営、ポスター、説明パネル、百のディ  
スプレイ、映像、ホームページの作製、写真  
展の写真撮影、関係資料作成印刷、渉外、マ

スコミ対応……等々、これらの雑多な仕事を  
千五百坪、五万株の栽培管理を一人で行いな  
がらこなしていく。

洋の東西を問わず、時代を超えて人々が感  
動するのは、夢を成し遂げる情熱のスケール  
である。



Flower Breeze フラワー ブリーズ

日本では今、失われた十年を引きずり、明  
日が見えないでいる。殺伐とした世界情勢……  
春の巡り来るのを待つ日々である。

山形の冬は何もない……。特に高齢者にとつ  
て裏日本の冬はあまりにも長い。春が待ち遠  
しい。

だから、蘭展は早春から行うのがいい。し  
かも蘭展の会場空間は、現在の日本において  
「別天地」でなければならぬ。現代の日本が  
失った「たおやか」なものでなければならぬ  
い。

一輪の花に人生を尋ね、明日を問う空間。  
私は、それが現代のアルカディア（桃源郷）  
であると思う。凜としてたおやか。今の日本  
に、寒河江に、そのような時空が必要ではな  
いか。

世界に例のない蘭展を、中央でなく山形の

地方で行うところに意義があり、育種家個人  
がすべてを行うことに意味がある。

バブル時代に、全国各地で横並びの似たよ  
うな発想の第三セクターによる観光拠点が数  
多く作られたが、それらはほとんど全滅に近  
い。本物でなければ人々は感動しない。行き  
たいとも思わない。そのような社会に、人々  
の感性も変化してきている。

私は、このような時代の来ることを予感し、  
待つてきた。私の出番であると思う。

継続は力である。私のところには七千のオ  
リジナル品種があり、この膨大な品種で毎年  
異なつた蘭展ができる。

しかも、近年のインターネットの発達に  
よつて、個人の育種家がそのオリジナル作品  
をリアルタイムで世界に発信できるようにな  
つた。私は千のホムページの自己管理を自  
分で作成・管理しており、蘭展の様子もすべて  
ウェブ上で公開した。IT革命がこれを可能  
にしたが、私の命あるうちに、このような時  
代に間に合ったことを幸運に思っている。

## 宇井 清太

(有)最上蘭園。

最上オーキッドガーデン代表。

昭和14年生まれ。

昭和37年蘭栽培を始める。

昭和43年日本で初めて蘭のクローンに成功。

シンビジューム新種RHS登録213種。

世界ランキング歴代10位。現役3位。

連絡先：〒991-0024 寒河江市六供町1-7-27

電話 0237-86-3223

<http://www.cymbi-mogami.co.jp>